

# T&Dインド中小型株ファンド (愛称: ガンジス)

おかげさまで225億円  
(2024年5月末現在)

## インド総選挙の結果と今後の見通し

### ■ファンドの運用実績



分配金再投資基準価額	65,772円
基準価額	16,806円
純資産総額	225.37億円

	騰落率
過去1年	49.3%
過去3年	84.8%
設定来	557.7%

(2024年5月末現在)

期間：2011年2月7日（設定日）～2024年5月31日（日次）

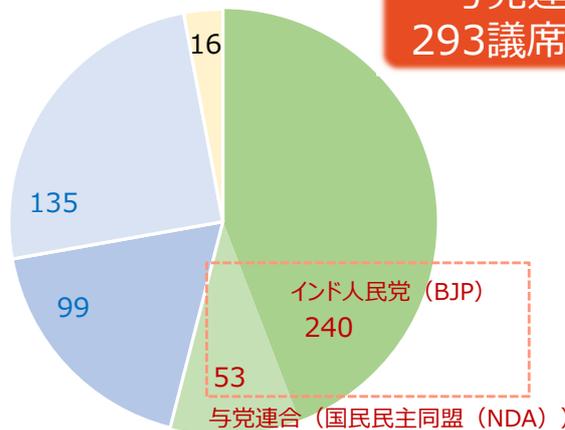
※分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。  
なお、基準価額および分配金再投資基準価額は信託報酬控除後です。

## ■2024年インド総選挙（結果編）

### 6月4日開票結果

インド人民党 (BJP) (与党連合：国民民主同盟 (NDA))	240 (293)
国民会議派 (INC) (野党連合：インド国家開発包括同盟 (I.N.D.I.A.))	99 (234)
その他	16

与党連合は  
293議席を獲得



### ■事前予想に反し、NDA（与党連合）は議席数を減らす結果になったものの、下院過半数を上回る議席を獲得し、3期目のモディ政権が始動

- 6月4日にインドの下院総選挙の開票が行われました。モディ首相率いる与党BJP（インド人民党）は単独で過半数には至らず、前回2019年の総選挙から議席を減らしましたが、与党連合NDA（国民民主同盟）では過半数を上回る議席を獲得し、モディ政権が維持されることになりました。
- 投票終了日の出口調査では、モディ首相率いる与党連合が全体の3分の2の議席を獲得し「圧勝」と伝わっていたにもかかわらず、蓋を開けてみると野党連合が予想外に善戦し議席数を大幅に増やす想定外の結果となったことで、6月4日のインド株式市場は大幅に下落する結果となりました。しかし翌日5日には、モディ政権が維持され政策に大きな変更はないとの期待から急反発しました。（2ページをご覧ください。）

出所：インベスコ・アセット・マネジメント（インド）プライベート・リミテッドからの情報に基づきT&Dアセットマネジメントが作成  
上記は将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

# T&Dインド中小型株ファンド (愛称：ガンジス)

## ■3期目のモディ政権

- 今回の総選挙にて議席数を減らしたものの、与党連合が過半数以上を獲得していることから、既存政策の方向性が変更される可能性は低いと考えます。BJPが絶対多数を得られなかったことで、連立を組むテルグ・デーサム党 (TDP) やジャナタ・ダル (JDU) などの地方政党への依存度が高まりましたが、選挙前に議席を分け合う取り決めをしており今後も連立政党はNDAを支持する可能性が高いため、モディ政権は3期目もこれまでの基本的な政策を変更なく継続していくと見込まれています。
- モディ首相は選挙後の同盟政党内閣の後、「改革路線継続」の姿勢を繰り返し表明し、成長が引き続き最優先政策であることを示唆しています。また新政権の主要閣僚は前期から変更なく、BJP主導の基本的な経済構想が揺らぐことはないと考えています。
- 一方で、福祉プログラムや消費、雇用を支援するため、優先順位の微調整を行う可能性はあると考えています。また、連立政党への依存度が高まる場合には、統一民法や農業改革など、経済面よりも社会秩序に関わる分野の改革を推進する上での制約が生じる可能性があるかとみています。しかしながら、前政権 (2014-24年) ですでに多くの重要で変革的な経済改革を発表しており、新政権が同じように改革を実行し続けるとしても、それは良いシナリオであると考えています。

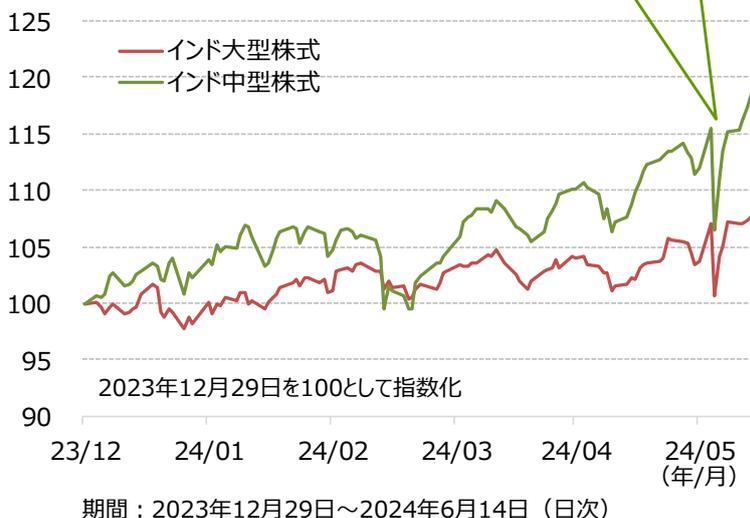
## ■インド経済の成長ストーリーは変わらない見込み

- 豊富な人口に加え、中間所得層の増加から個人消費が拡大し、内需主導の高成長が見込まれていることには変わりはありません。5月31日にインド当局が発表した2023年度 (2023年4月～2024年3月) の実質GDP成長率は、前年度比8.2%と高い成長率となりました。
- 新政府は以下の点に引き続き注力していくと思われます。
  - (1) 低インフレ、高成長、低/中等度の財政赤字路線の継続
  - (2) 着実なインフラ支出
  - (3) メイク・イン・インド、PLI (生産連動型インセンティブスキーム)、法律の簡素化、研究開発などによるインドの製造業の地位向上
  - (4) 教育、保健、住居、治安などへの基本的支出
  - (5) 農村部を基盤としたプログラムの効率的な実施
- 今後は新政権の100日アジェンダの発表と7月24日に正式に発表される2024年度予算案に注目が集まるとみています。新政権がどのような道を歩もうとしているのかを示す手がかりとなります。

株価指数の推移 (2020年以降)



株価指数の推移 (2024年以降)



中型株式：  
6/4に約8%下落  
6/7までに下落分を  
ほぼ回復

インド大型株式：Nifty50指数、インド中型株式：Nifty中型株100指数

出所：インベスコ・アセット・マネジメント (インド) プライベート・リミテッドからの情報、Bloombergのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

上記は将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

## NISA成長投資枠

当ファンドはNISAの成長投資枠（特定非課税管理勘定）の適用対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

## 【ファンドの特色】

## 1 インドの証券取引所に上場する株式のうち、中小型株を実質的な主要投資対象とします。

- ファンドは、モーリシャス籍・外国投資法人「ライジング・インディア・フォーカス・ファンド・リミテッド アイプロ・インド 中小型株ファンド（米ドル建）」投資証券（以下「外国投資証券」ということがあります。）を通じて、主としてインドの証券取引所に上場する中小型株に投資を行います。
- 外国投資証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。

## 2 中小型株への実質的な投資にあたっては、インドの高度経済成長期において高い成長が期待でき、相対的に割安と考えられる株式を選定し、組入銘柄を決定します。

## 3 外国投資証券の運用において、インドの株式運用で実績のある、インベスコ・アセット・マネジメント（インド）プライベート・リミテッドが投資助言を行います。

- インベスコ・アセット・マネジメント（インド）プライベート・リミテッドは、インドに本社を置く資産運用会社であり、世界各国に拠点を持つ独立系運用会社であるインベスコ・グループの一員です。
- インベスコ・アセット・マネジメント（インド）プライベート・リミテッドの助言に基づいた銘柄選定（40～60銘柄程度）により、ガベカル・ウェルス（モーリシャス）・リミテッドが投資を行います。

ガベカル・ウェルス（モーリシャス）・リミテッド* （所在地：モーリシャス）	ライジング・インディア・フォーカス・ファンド・リミテッド アイプロ・インド 中小型株ファンド（米ドル建）の投資顧問会社です。
インベスコ・アセット・マネジメント（インド）プライベート・リミテッド（所在地：インド）	インドに本社を置く資産運用会社であり、世界各国に拠点を持つ独立系運用会社であるインベスコ・グループの一員です。

\* 2024年3月15日付で投資顧問会社の名称は「インベストメント・プロフェッショナルズ・リミテッド」から「ガベカル・ウェルス（モーリシャス）・リミテッド」に変更されました。

## 4 原則として為替ヘッジは行いません。

- 実質組入外貨建資産については原則として為替ヘッジは行いませんので、為替変動の影響を受けます。

※資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

### ファンドの関係法人

委託会社：T&Dアセットマネジメント株式会社

信託財産の運用指図等を行います。

受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社

（再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）

信託財産の保管・管理業務等を行います。

■ 設定・運用は

### 照会先

T&Dアセットマネジメント株式会社

電話番号：03-6722-4810

（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

インターネットホームページ：<https://www.tdasasset.co.jp/>

 T&Dアセットマネジメント

商号等：T&Dアセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第357号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

【当資料で使用するデータについて】

- T&Dインド中小型株ファンド（以下、「本商品」）は、NSE インディーズリミテッド（以下、NSEIL）によって支持、保証、販売又は販売促進されるものではありません。NSEILは、明示的にも暗示的にも、本商品の所有者もしくは一般の者に対して、有価証券全般または本商品に関する投資について、またインドにおいてNifty 50指数（以下、「本指数」）が市場全般のパフォーマンスに追随する能力について、何ら表明、条件付け又は保証するものではありません。NSEILのT&Dアセットマネジメント株式会社に対する唯一の関係は、NSEILがT&Dアセットマネジメント株式会社又は本商品に関係なく決定、作成及び計算する本指数並びにNSEILの登録商標についての利用許諾を与えることです。NSEILは、本指数の決定、作成及び計算において、T&Dアセットマネジメント株式会社又は本商品の所有者の要求等を考慮に入れる義務を負うものではありません。NSEILは、本商品の販売に関する時期、価格の決定、又は本商品を現金に換算する式の決定もしくは計算に責任を負わず、また関わっていません。NSEILは、本商品の管理、マーケティング又は取引に関する義務又は責任を何ら負うものではありません。NSEILは、Nifty 50指数の計算及びその元になるデータの正確性や完全性を保証するものではありません。また、NSEILは、本指数に含まれるいかなる誤り、欠落又は障害に対する責任を負いません。NSEILは、本指数又はそれらに含まれるデータの使用により、T&Dアセットマネジメント株式会社、本商品の所有者又はその他の人や組織に生じた結果に対して、明示的にも暗示的にも保証しません。NSEILは、本指数又はそれらに含まれるデータに関して、商品性の保証や適合性について何ら保証するものではないことを明示し、かつそれに関して明示もしくは暗示の保証を行いません。以上のことに関わらず、特定の、罰則的、間接的あるいは結果的な損害（利益の損失を含む）について、仮にその可能性について事前に通知されていたとしても、NSEILが責任を負うことはありません。

## 販売会社の名称等

販売会社		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
あかつき証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長（金商） 第67号	○	○	○	
池田泉州TT証券株式会社	金融商品 取引業者	近畿財務局長（金商） 第370号	○			
株式会社SBI証券	金融商品 取引業者	関東財務局長（金商） 第44号	○		○	○
株式会社熊本銀行	登録金融 機関	九州財務局長（登金） 第6号	○			
株式会社十八親和銀行	登録金融 機関	福岡財務支局長（登金） 第3号	○			
auカブコム証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長（金商） 第61号	○	○	○	○
十六TT証券株式会社	金融商品 取引業者	東海財務局長（金商） 第188号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品 取引業者	東海財務局長（金商） 第140号	○	○	○	○
東武証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長（金商） 第120号	○			
とちぎんTT証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長（金商） 第32号	○			
西日本シティTT証券株式会社	金融商品 取引業者	福岡財務支局長（金商） 第75号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長（金商） 第1977号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長（金商） 第152号	○	○		
株式会社福岡銀行	登録金融 機関	福岡財務支局長（登金） 第7号	○		○	
ほくほくTT証券株式会社	金融商品 取引業者	北陸財務局長（金商） 第24号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長（金商） 第165号	○	○	○	○
株式会社イオン銀行	登録金融 機関	関東財務局長（登金） 第633号	○			
委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長（金商） 第165号	○	○	○	○
株式会社SBI新生銀行	登録金融 機関	関東財務局長（登金） 第10号	○		○	
委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長（金商） 第165号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長（金商） 第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品 取引業者	中国財務局長（金商） 第8号	○			

※加入協会に○印を記載しています。

## 投資リスク

ファンドの基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は全て投資者に帰属します。したがって、ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、ファンドは預貯金とは異なります。

ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクは次の通りです。

株価変動リスク

為替変動リスク

カントリーリスク

流動性リスク

信用リスク

投資対象ファンドに係る税務リスク

※基準価額の変動要因（リスク）は、上記に限定されるものではありません。

## その他の留意点

○ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

○インドの税制に関する留意点

○分配金に関する留意点

- ・分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
  - ・分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期末決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
  - ・投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 大量の解約・換金申込を受け付け短期間で解約資金を準備する必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、投資する有価証券の価格が下落し、基準価額が変動する要因となります。また、換金申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

## ファンドの費用

### ■ 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 <b>3.3%（税抜3.0%）</b> を上限として販売会社が個別に定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.3%</b> の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

### ■ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）	<p>【ファンド】 毎日、ファンドの純資産総額に<b>年1.221%（税抜1.11%）</b>の率を乗じて得た額とします。</p> <p>【投資対象とする外国投資証券】 外国投資証券の純資産総額に対し、年0.83%程度</p> <p>【実質的な負担】 <b>年2.051%（税抜1.94%）程度</b> ファンドが投資対象とする外国投資証券の運用報酬等を加味して、受益者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。</p>
その他の費用・手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信託財産にかかる監査費用および当該監査費用にかかる消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。</li> <li>・ 証券取引に伴う手数料、組入資産の保管に要する費用等は、信託財産中から支弁します。</li> </ul> <p>また、組入外国投資信託において、証券取引・オプション取引等に伴う手数料、その他ファンド運営に必要な各種費用等がかかります。</p> <p>これらの費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を示すことができません。</p>

上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金時	換金単位	販売会社が定める単位
	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額を差引いた額
	換金代金	原則として換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
	信託期間	2044年2月10日まで （2011年2月7日設定）
	決算日	毎年2月、8月の各10日 （休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年2回、毎決算時に収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ただし、必ず分配を行うものではありません。
	課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は、税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度（NISA）の適用対象となります。ファンドについては、NISAの成長投資枠（特定非課税管理勘定）の適用対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。配当控除の適用はありません。
	申込不可日	下記のいずれかに該当する日には、購入、換金の申込はできません。 ○ボンベイ証券取引所、ナショナル証券取引所の休場日 ○インド、モーリシャスの各銀行の休業日

## ご留意いただきたい事項

- 当資料はT&Dアセットマネジメントが作成した情報提供資料です。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載された意見・見通しは表記時点での当社の判断を反映したものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。
- 投資信託はリスクを含む商品であり、株式および公社債等値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 購入のお申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断いただきますようお願い致します。投資信託説明書（交付目論見書）は販売会社にてご入手いただけます。